

# 中国横断自動車道尾道松江線建設 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（14）

上陣遺跡

2011

財団法人 広島県教育事業団

## 例　　言

- 1 本書は、平成19年度に調査を実施した中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る上陣遺跡（広島県三次市向江田町字上陣202-1外）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所との委託契約により財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室が実施した。
- 3 発掘作業は埋蔵文化財調査室の渡邊昭人が担当し、株式会社イビソクが支援業務を行った。株式会社イビソクの調査員は、岡田有司、<sup>かとうゆうし</sup>次金菜見である。
- 4 出土遺物の整理は調査室の鍛治益生（退職）が中心に、調査室の職員及び賃金職員村田智子、有原ひろみが行い、調査室の青山透が補足を行った。
- 5 本書の執筆・編集は鍛治が行い青山が補足した。
- 6 本書に使用した北方位はすべて平面直角座標系第III座標の北である。
- 7 第2図の地図は国土交通省国土地理院発行の1：50,000の地形図（三次）を使用した。
- 8 出土遺物・発掘資料については、広島県教育委員会（広島県立埋蔵文化財センター）で保管している。

## 目　　次

I	はじめ	(1)
II	位置と環境	(4)
III	調査の概要	(7)
IV	造構と遺物	
	(1) 検出の造構	(9)
	(2) 出土の遺物	(14)
V	まとめ	(15)

## 挿　図　目　次

第1図	中国横断自動車道尾道松江線路線図	(1)
第2図	上陣遺跡周辺遺跡分布図（1：50,000）	(5)
第3図	上陣遺跡周辺地形図（1：2,000）	(7)
第4図	上陣遺跡調査区及び造構配置図（1：600）	(8)
第5図	SK1・2実測図（1：20）	(10)
第6図	SK3・4実測図（1：20）	(11)
第7図	SK5～9実測図（1：30, 50）	(13)
第8図	出土遺物実測図（1：3）	(14)

## 表 目 次

第1表 中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る発掘調査報告書刊行遺跡一覧 …… (2)

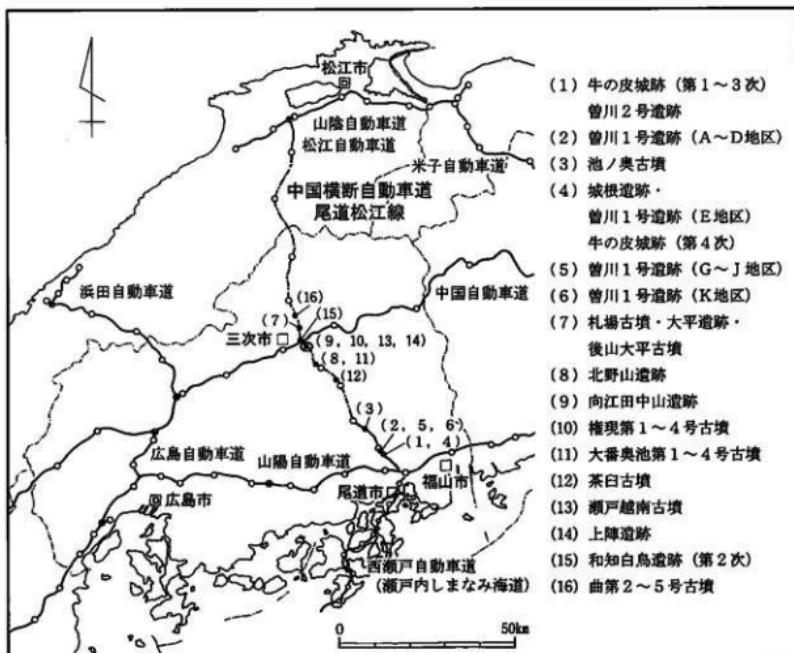
## 図 版 目 次

図版 1	a 空中写真	図版 6	a SK 6 遺物出土状況 (北から)
	b 空中写真		b SK 6 遺物出土状況 (北西から)
	c 調査前近景 (南から)		
図版 2	a SK 1 検出状況 (北東から)	c SK 6 完掘状況 (北から)	
	b SK 1 遺物出土状況 (南から)	図版 7	a SK 7 検出状況 (東から)
	c SK 1 完掘状況 (東から)	b SK 7 炭、焼土検出状況 (東から)	
図版 3	a SK 2 検出状況 (北東から)	c SK 7 完掘状況 (北から)	
	b SK 2 完掘状況 (北東から)	図版 8	a SK 8 検出状況 (東から)
	c SK 3 検出状況 (北から)	b SK 8 完掘状況 (東から)	
図版 4	a SK 3 完掘状況 (北から)	c SK 9 検出状況 (北から)	
	b SK 4 検出状況 (北東から)	図版 9	a SK 9 完掘状況 (北から)
	c SK 4 完掘状況 (東から)	b 調査後近景 (南から)	
図版 5	a SK 5 検出状況 (南東から)	c 出土遺物 1, 2	
	b SK 5 完掘状況 (北東から)		
	c SK 6 検出状況 (北から)		

# I はじめに

上陣遺跡の発掘調査は、中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係るものである。本事業は、尾道市美の郷町を山陽自動車道との結節点とし、県内の世羅町・三次市・庄原市の各市町を通過して島根県松江市にいたる高速道路で、沿線各地域の産業・経済・文化の発展に重要な役割を果たすことを目的で計画されたものである。

日本道路公団中国支社広島工事事務所（以下、「道路公団」という。）は、平成13（2001）年7月、三次市四拾賀町から比婆郡口和町（現 庄原市口和町）間の事業地内の文化財の有無及び取扱いについて、広島県教育委員会（以下、「県教委」という。）と協議した。県教育はこれを受けて現地踏査を行い、平成17年8月、道路公団に試掘調査が必要な箇所が存在する旨を回答した。県教委は、平成18年8月試掘調査を実施し、本遺跡の存在を確認したことから、このことを道路公団に変わって事業主体となった国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所（以下、「国土交通省」という。）に通知した。



第1図 中国横断自動車道尾道松江線路線図<(1)～(16)は報告書番号>

第1表 中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る発掘調査報告書刊行遺跡一覧

報告番	遺跡名	地区名	調査期間	所在地	時期	内容			
(1)	牛の皮城跡 (北郭群)	第1次 破壊状堅堀群	平成15年1月20日～3月14日	尾道市御調町大町字二の丸	中世	城跡			
		第2次 1～4郭	平成15年7月7日～10月31日						
		第3次 西堅堀	平成15年11月10日～11月28日						
	曾川2号遺跡		平成15年1月20日～3月7日	尾道市御調町大町字西川	古代末～中世	集落跡			
(2)	曾川1号遺跡	A地区 旧・平成14年度調査区	平成14年10月21日～平成15年1月17日	尾道市御調町大町字曾川	弥生時代～中世	集落跡			
		B地区 旧・P2第一調査区	平成15年4月7日～5月23日						
		C地区 旧・P2第二調査区	平成16年1月6日～2月5日						
		D地区 旧・P1	平成16年8月23日～10月28日						
(3)	池ノ奥古墳		平成16年8月23日～10月28日	世羅郡世羅町宇津戸字天神	古墳時代後期	古墳			
	城根遺跡		平成15年1月27日～3月7日	尾道市御調町大町字城根	古墳時代か	箱式石棺			
(4)	牛の皮城跡 (北郭群)	第4次 5郭	平成18年1月30日～2月24日	尾道市御調町大町字二の丸	中世	城跡			
		曾川1号遺跡 E地区 旧・P4	平成15年12月1日～12月19日	尾道市御調町大町字米田	縄文時代後期～中世	遺物包含層			
(5)	曾川1号遺跡	G地区 旧・P3	平成16年6月7日～8月6日	尾道市御調町大町字曾川・米田	弥生時代～中世	集落跡			
		H地区 旧・P3側道							
		I地区 旧・P4側道	平成17年1月11日～3月4日						
		J地区 旧・P2							
(6)	曾川1号遺跡 K地区		平成17年4月11日～7月1日	尾道市御調町大町字曾川・米田	弥生時代～中世	集落跡			
	札場古墳		平成17年11月21日～平成18年1月27日	三次市後山町字札場	古墳時代後期	古墳			
(7)	大平遺跡		平成19年6月21日～10月5日	三次市後山町字大平	弥生時代後期～古代	集落跡			
	後山大平古墳		平成19年6月21日～10月5日	三次市後山町字大平	古墳時代後期	古墳			
(8)	北野山遺跡		平成18年7月3日～8月4日	三次市吉舎町字敷地	平安時代	仏教関連の施設跡			
(9)	向江田中山遺跡		平成18年4月17日～6月23日	三次市向江田町字中山	古墳時代末～古代	集落跡			
(10)	梅現第1～3号古墳		平成17年7月11日～11月11日	三次市向江田町権現	古墳時代中期	古墳			
(11)	大番奥池第1～3・7号古墳		平成18年4月17日～8月4日	三次市吉舎町字敷地	古墳時代後期	古墳			
(12)	茶臼古墳		平成20年7月7日～9月5日	三次市甲尻町大字字賀	古墳時代中期	古墳			
(13)	瀬戸越南古墳		平成19年6月25日～8月10日	三次市向江田町字瀬戸越	古墳時代中期	古墳			
(14)	上陣遺跡		平成19年7月9日～8月31日	三次市向江田町字上陣	古墳時代中期	集落跡			
(15)	和知白鳥遺跡(第2次)		平成19年9月25日～12月21日	三次市和知町白鳥	後期旧石器時代	集落跡			
(16)	曲第2～5号古墳		平成19年7月2日～9月21日	庄原市口和町金田字本谷	古墳時代中期	古墳			

国土交通省は平成19年2月20日付けで文化財保護法第94条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘の通知」を三次市教育委員会（以下、「市教委」という。）に提出し、市教委は同年同月21日付けで、事前に発掘調査が必要である旨国土交通省に通知した。

これを受け国土交通省は、同年同月26日付けで財団法人広島県教育事業団（以下、「教育事業団」という。）に上陣遺跡の調査を依頼し、国土交通省と教育事業団は同年4月2日付けで委託契約を締結した。その後、教育事業団は、同年4月27日付けで文化財保護法第92条第1項に基づく埋蔵文化財の発掘調査届を市教委に提出し、5月28日付けで報告書を作成すること等を条件に、慎重に発掘調査を実施するよう指示を受けたことから、同年7月9日から8月31日までの間、発掘調査を行った。

本報告書は、以上のような経緯のもとに行った発掘調査に成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財の資料として、また本地域の歴史の一端を解明する手がかりとして、少しでも寄与できれば幸いである。

なお、発掘調査にあたっては、国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所、三次市教育委員会及び地元の方々の多大な御協力をいただいた。末筆ながら記して感謝の意を表します。

#### 第1表の報告書

- (1) 財団法人広島県教育事業団『牛の皮城跡・曾川2号遺跡 中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』2005年
- (2) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2) 曾川1号遺跡(A～D地区)』2006年
- (3) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(3) 池ノ奥古墳』2007年
- (4) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4) 城根遺跡 曾川1号遺跡(E地区) 牛の皮城跡(第4次)』2008年
- (5) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(5) 曾川1号遺跡(G～J地区)』2008年
- (6) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(6) 曾川1号遺跡(K地区)』2008年
- (7) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(7) 札場古墳・大平遺跡・後山大平古墳』2009年
- (8) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(8) 北野山遺跡』2009年
- (9) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(9) 向江中山遺跡』2010年
- (10) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(10) 権現第1～3号古墳』2010年
- (11) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(11) 大番奥池第1～3・7号古墳』2010年
- (12) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(12) 茶臼古墳』2011年
- (13) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(13) 潬戸越南古墳』2011年
- (14) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(14) 上陣遺跡』2011年
- (15) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(15) 和知白鳥遺跡(第2次)』2011年
- (16) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(16) 曲第2～5号古墳』2011年

## II 位置と環境

上陣遺跡は三次市向江田町字上陣に所在する。遺跡の立地する丘陵の南裾には、東から西に流れる国兼川があり、近接する馬洗川と合流する。遺跡の周辺には小河川があり、それぞれ矮小な冲積地を形成している。

ところで三次市内では、中国横断自動車道尾道松江線建設事業（以下横断道という）に伴って近年盛んに発掘調査がなされている。ここではその成果を中心に周辺遺跡の概要を記述する。

旧石器時代の遺跡としては、和知町所在の和知白鳥遺跡と四拾貫町所在の段遺跡が上げられる。<sup>(1)</sup> いずれの遺跡も2次にわたる発掘調査がなされ、その結果、始良丹沢火山灰層より下層で、三瓶池田降下軽石層より上層から遺物が出土しており、後期旧石器時代に属することが明らかとなつた。

縄文時代に属する遺跡は、近年確認された遺跡はない。

弥生時代の遺跡は、周辺部には確認されているが、横断道関係では後山町所在の大平遺跡において<sup>(2)</sup> 1軒の竪穴住居跡が確認されている。

横断道関係では古墳時代の遺跡がもっとも多く調査がなされている。このうち集落跡としては前出の和知白鳥遺跡、段遺跡、大平遺跡などのほか向江田町所在の向江田中山遺跡などが調査されている。このうち和知白鳥遺跡では50軒近い竪穴住居跡が確認され、5世紀中頃から6世紀中頃にかけての集落であったことが確認されている。

古墳については多くの遺跡で発掘調査がなされている。このうち向江田町所在の宮の本古墳群では9基の古墳が調査され、4～7世紀にかけて築造された古墳であることが確認された。

このうち第24号古墳は直径30m、高さ4mと規模が大きな2段築成の古墳で、上段墳丘外表面にはほぼ全域にわたって葺石を行っていた。また上段と下段との境の平坦面外周寄りに円筒埴輪をほぼ等間隔に並べていたことが明らかとなった。

また同じく向江田町所在の箱山古墳群では4基の古墳が調査され、4～6号古墳は5世紀代の古墳であることが確認された。とくに5号古墳は2段築成の方墳で、外表面には2段にわたって葺石がなされていた。

このほかにも向江田町所在の權現第1～3号古墳（5世紀頃）、同町所在の瀬戸越南古墳（5～6世紀頃）、後山町所在の札場古墳<sup>(3)</sup>（6～7世紀頃）、後山大平古墳<sup>(4)</sup>（6～7世紀頃）などが調査されている。

古代に所属する遺跡としては、前出の向江田中山遺跡、宮の本遺跡、若見迫遺跡などが上げられる。このうち向江田中山遺跡では飛鳥時代前半（7世紀前半から中頃）の掘立柱建物跡が整然とした配置で検出されており、豪族居宅や官衙関連遺跡の可能性が考えられている。また、宮の本遺跡では7～8世紀にかけての42軒の竪穴住居跡や土坑15基などの集落跡を検出した。一方若見迫遺跡では、掘立柱建物跡、土坑、柵列などを検出し、土師器、須恵器、瓦などの土器類をは



第2図 周辺遺跡分布図 (1 : 50,000) (II章「位置と環境」で取り上げた遺跡)

- |                        |          |            |              |          |             |
|------------------------|----------|------------|--------------|----------|-------------|
| 1 若見追遺跡                | 2 大平遺跡   | 3 札場古墳     | 4 段遺跡        | 5 和知白鳥遺跡 | 6 植現第1～3号古墳 |
| 7 向江田中山遺跡              | 8 上陣遺跡   | 9 潤戸越南古墳   | 10 箱山第3～6号古墳 |          |             |
| 11 宮の本第20～26, 30・31号古墳 | 12 下の割遺跡 | 13 河原田2号遺跡 |              | 14 寺町廃寺跡 |             |
| 15 上山手廃寺               |          |            |              |          |             |

じめとし、鉛のインゴットなどの遺物が出土した。特に鉛のインゴットの出土は県内では初例で、全国的に見ても極めて貴重な資料である。この遺跡については、周辺地域に「幸利」という地名が残っていることや、瓦などの遺物が出土していることなどから、何らかの官衙的施設があったのではないかと考えられている。

また、当地域では寺町廃寺跡<sup>(12)</sup>、上山手廃寺<sup>(13)</sup>などの古代寺院跡の存在が知られている。

## 註

- (1) 財団法人広島県教育事業団 広島県立歴史民俗資料館「中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る備北  
城埋蔵文化財調査報告会 資料」 2008年
- (2) 註(1)と同じ
- (3) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(7)  
大平遺跡』 2009年
- (4) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(9)  
向江田中山遺跡』 2010年
- (5) 註(1)と同じ
- (6) 財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室『年報4(平成18年度)箱山第3～6号古墳』 2009  
年
- (7) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(10)  
椎原第1～3号古墳』 2010年
- (8) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(13)  
瀬戸越南古墳』 2011年
- (9) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(7)  
札場古墳』 2009年
- (10) 財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(7)  
後山大平古墳』 2009年
- (11) 財団法人広島県教育事業団 広島県立歴史民俗資料館「中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る備北  
地域埋蔵文化財調査報告会 資料」 2008年
- (12) 財団法人広島県教育事業団 広島県立歴史民俗資料館「中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る備北  
地域埋蔵文化財調査報告会 資料」 2009年
- (13) 三次市教育委員会「備後寺町廃寺－推定三谷寺跡第1～4次発掘調査概報－」 1980～1983年
- (14) 広島県教育委員会「上山手廃寺発掘調査概報」(1)～(3) 1979～1981年

### III 調査の概要

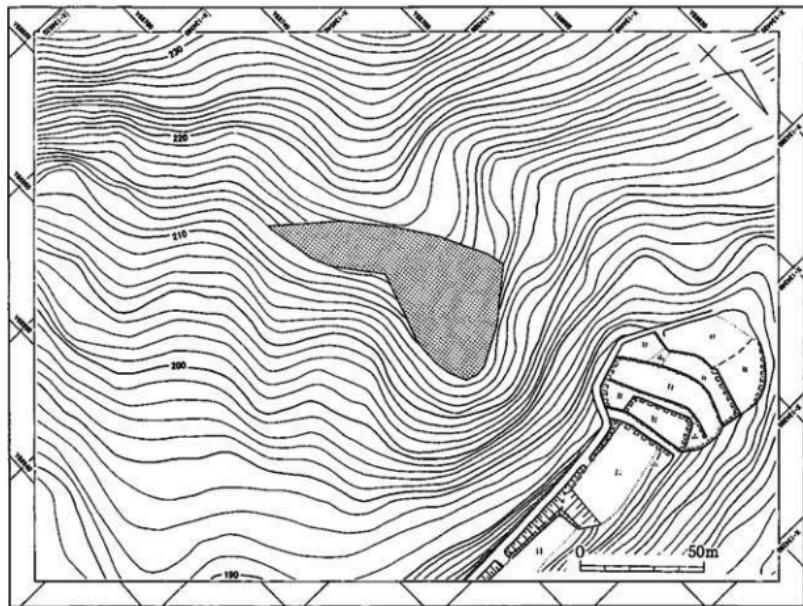
#### (1) 遺跡の状況

上陣遺跡は、三次市向江田町上陣に所在する。遺跡は馬洗川の支流国兼川の右岸の丘陵上に位置する。周辺の水田面との比高は約40mである。現状は山林で、遺跡の標高は209~218mで、遺跡内においても斜面となっている。

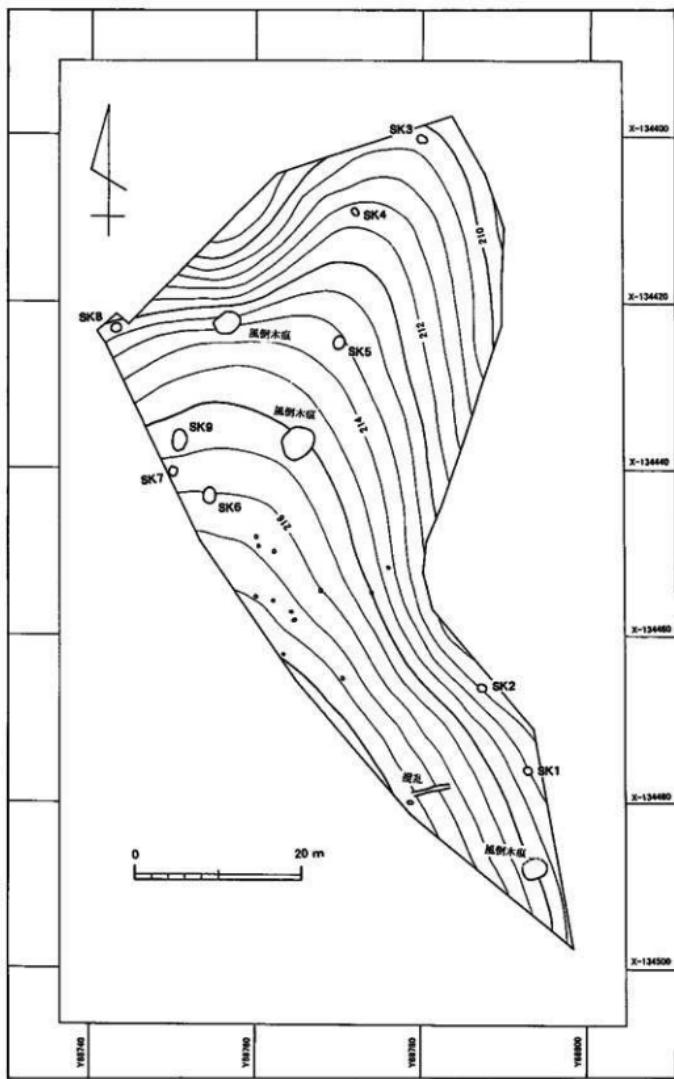
#### (2) 調査の方法・概要

調査は造構確認面までは重機を使用して掘り下げを行い、その後は人力によって造構を検出・掘り下げを実施した。

その結果、土坑9基、風倒木痕3か所などを確認した。遺物は2基の土坑から土師器の甕が出土した。これらの遺物は5世紀中頃、6世紀前半頃のものと思われ、当該地が古墳時代にわたり、比較的長期間使用されたことが窺われた。



第3図 上陣遺跡周辺地形図 (1 : 2,000)



第4図 上陸遺跡調査区及び遺構配図 (1 : 600)

## IV 遺構と遺物

### (1) 検出の遺構

#### SK 1 (第5図、図版2 a ~ c)

調査区南東隅で検出した土坑で、不整形な隅丸長方形を呈する。規模は掘方上面で長軸方向1.00m、短軸方向0.80mで、深さは0.25mである。掘方底面は上端と同様に不整形な隅丸長方形で、長軸0.53m、短軸0.43mで、中央がややくぼむ。壁面は底面から緩やかに立ち上がっている。また西壁の一部が赤変していた。土坑中の埋土は黒褐色系の土で、底面付近には大量の炭化物を含む堆積層がある。底面から5cmほど浮いた状況で土師器の甕（第8図1）が出土した。所属時期については、出土遺物から古墳時代中頃から後半（6世紀前半頃）の遺構と考えられる。

#### SK 2 (第5図、図版3 a · b)

SK 1の北西側約11m付近で検出した土坑である。掘り方上面では不整形な円形で、北東方向の壁は流失している。規模は長軸方向約0.97m、短軸方向約0.75m、深さは約0.25mである。掘方底面は不整な円形で、規模は長軸方向0.75m、短軸方向約0.70mである。南西側から北西側の壁面は、底面から比較的角度をもって立ち上がっている。底面はやや中央部がくぼんでいる。土坑内の埋土は黒褐色系の土で、特に底面近くからは炭化物を大量に含む堆積層が認められる。土坑内からは遺物が出土していない。

#### SK 3 (第6図、図版3 c, 4 a)

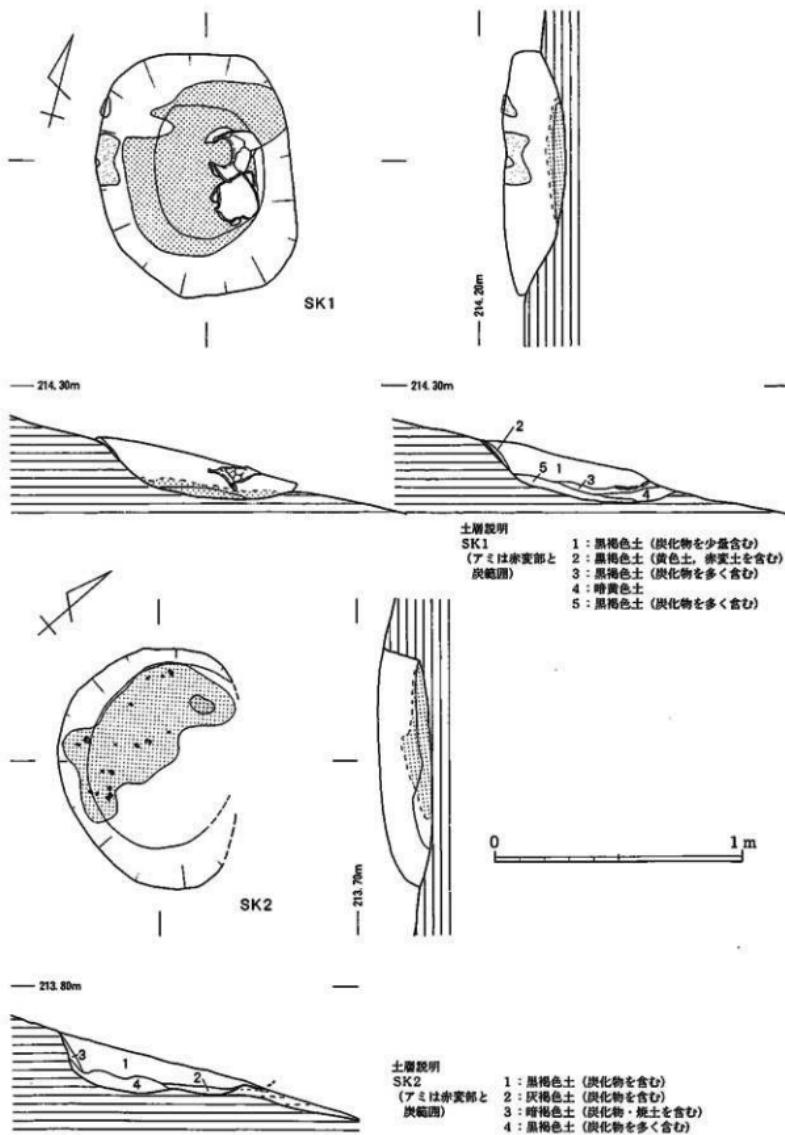
調査区北東隅で検出した不整形な隅丸長方形の土坑である。掘り方上面の規模は、長軸方向1.30m、短軸方向0.95mである。深さは7~15cmで、掘り方底面は不整形な隅丸長方形で、規模は長軸方向で1.12m、短軸方向で0.92mである。南北方向の壁面は、底面から急に立ち上がり、東西方向の壁面は緩やかに立ち上がる。また底面はほぼ平坦である。土坑内の覆土は黒色系の土で、若干の炭化物を含んでいる。土坑内からは遺物が出土していない。

#### SK 4 (第6図、図版4 b · c)

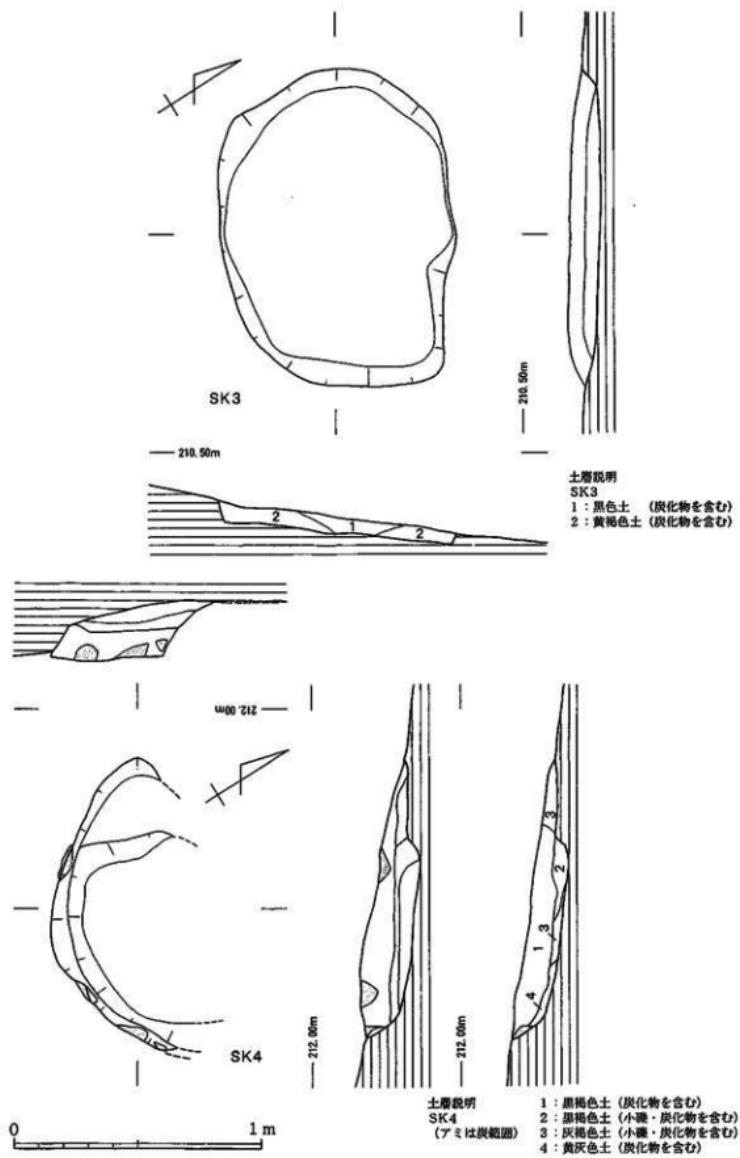
SK 3の南西12m付近で検出した不整形な土坑で、土坑の北半部は試掘トレーナーによって切られているため。本来の掘方の規模は不明である。南側の壁面は底面から角度をもって立ち上がっており、底面は北側にかけて傾斜して上がっている。土坑内の埋土は黒褐色土、灰褐色土、黄灰色土で、若干の炭化物を含む。土坑内から遺物が出土していない。

#### SK 5 (第7図、図版5 a · b)

SK 3の南側15m付近で検出した南側がややとがり気味となる不整形な土坑である。掘方上面の規模は、長軸方向1.86m、短軸方向で1.47mである。深さは25~40cmである。掘方底面は不整



第5図 SK1・2実測図 (1:20)



形な隅丸長方形で、規模は長軸方向で1.68m、短軸方向1.54mで東壁と西壁がオーバーハング気味となっている。壁はいずれも底面から急に立ち上がっており、底面はほぼ平坦である。土坑内の埋土は褐色土、黒褐色土、灰褐色土である。土坑内からは遺物が出土していない。

#### SK 6 (第7図、図版5c, 6a~c)

調査区西辺の中央付近で検出した隅丸長方形の土坑である。掘方上面での規模は長軸方向1.97m、短軸方向1.26mである。深さは40~50cmで、掘方底面も隅丸長方形を呈する。規模は長軸方向1.67m、短軸方向1.08mで底面中央より南側が2段掘りとなっている。

壁面は底面から比較的急に立ち上がっており、土坑内の覆土は上半部が黒褐色系の土で、下半部が暗黃灰色系の土である。底面のくぼみ部付近を中心底面から約10~15cm浮いた状態で土師器の甕形土器がまとまって出土した。これの遺物（第8図2）から、SK 6は古墳時代中頃（5世紀中頃）の遺構と考えられる。

#### SK 7 (第7図、図版7a~c)

SK 6の北西側約5m離れた箇所で検出した不整形な方形の土坑である。掘方上面の規模は長軸方向1.07m、短軸方向1.02mである。深さは約15cmと浅く、掘方底面も不整形な方形で、規模は長軸方向0.98m、短軸方向0.95mである。

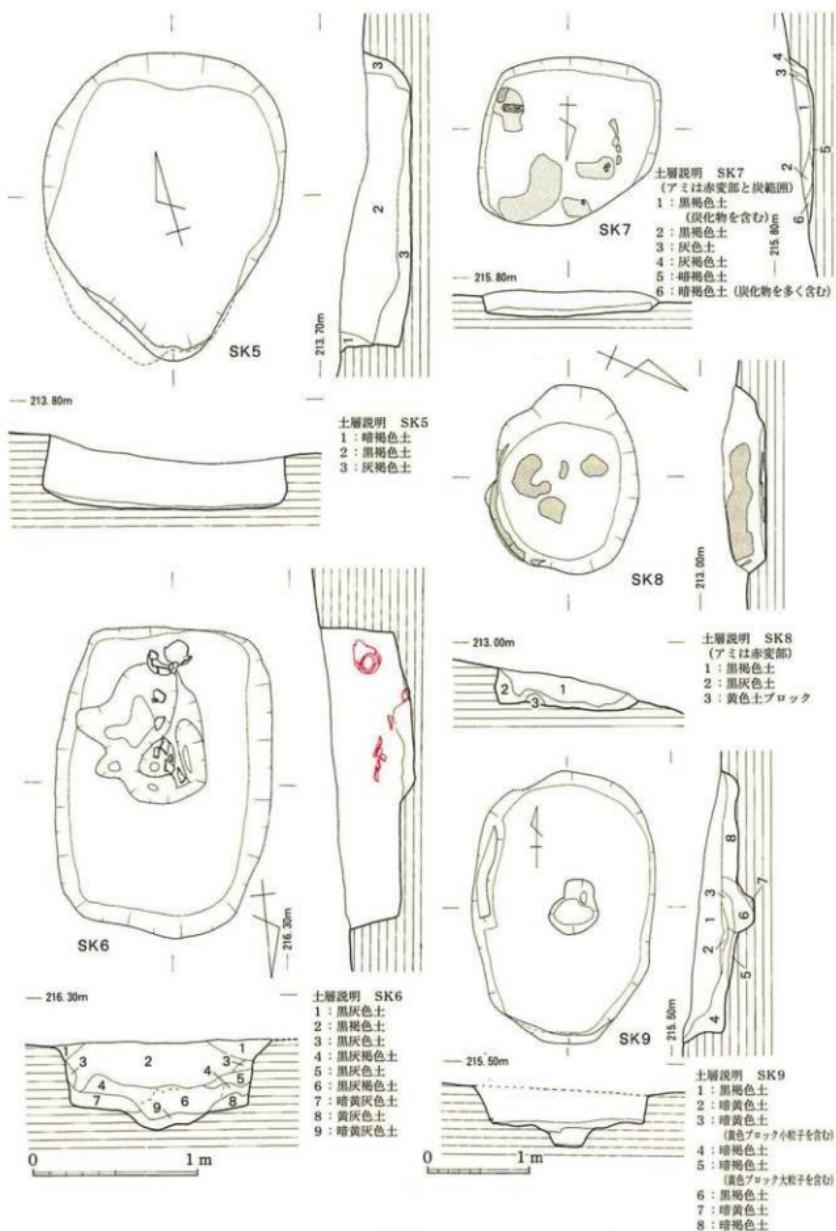
壁面は底面から比較的角度をもって立ち上がっており、底面はほぼ平坦である。土坑内の覆土は黒褐色、灰褐色、暗褐色土である。また、底面に密着した状態で数か所炭や焼土が広がる範囲が認められた。土坑内からは遺物が出土していない。

#### SK 8 (第7図、図版8a・b)

調査区北西隅で検出した不整形円形の土坑である。掘方上面での規模は長軸方向1.15m、短軸方向0.92mである。掘方下端も不整形な円形で、規模は長軸方向0.83m、短軸方向0.72mである。壁面は底面から比較的急に立ち上がり、底面はほぼ平坦となる。土坑内の埋土は黒褐色から暗褐色土である。土坑内からは底面と壁面の一部に付着した状態で焼土が出土した。また、土坑内からは遺物が出土していない。

#### SK 9 (第7図、図版8c・9a)

SK 7の北東側約2m離れた箇所で検出した楕円形の土坑である。掘方上面での規模は長軸方向2.70m、短軸方向1.82mである。掘方下端も端整な楕円形で、規模は長軸方向2.48m、短軸方向1.52mである。壁面は底面から比較的急に立ち上がり、底面はほぼ平坦となる。底面中央部に直径0.5m、深さ0.2mのやや不整形な円形の穴が掘られている。土坑の埋土は黒褐色から暗褐色土で、中央の凹部の埋土は暗褐色土で明瞭に分離されない。当該遺跡の土坑の内最大規模のものである。土坑内からは遺物が出土していない。



第7図 SK 5～9実測図 (1:30, SK 9は1:50)

その他の遺構

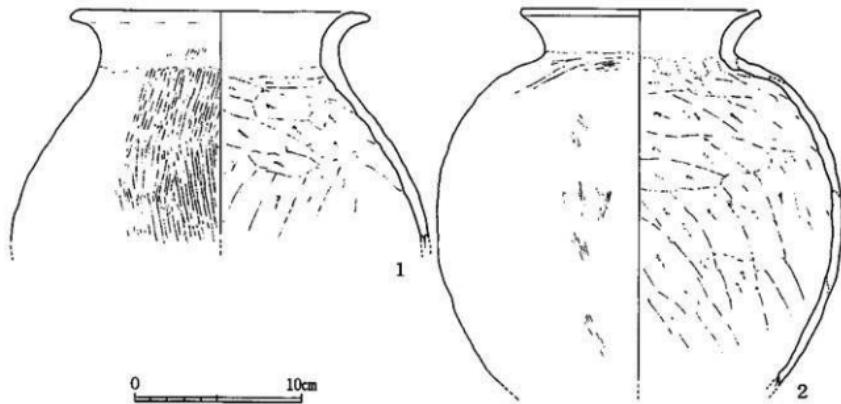
SK 1～9以外に、3基の風倒木痕を検出した。

(2) 出土の遺物 (第8図、図版9c)

SK 1とSK 6から土師器の甕が出土した。

第8図1はSK 1から出土。復元口径は17.6cmである。口縁部は頸部から緩やかに外反して外上方に短くのび、端部は丸くおわる。体部はやや長胴気味であろう。調整は口縁部内外面とも横ナデ、体部は外面縦方向の荒い刷毛調整、内面下半は縦位のヘラ削り、上半は横位のヘラ削りである。胎土は大きめの砂粒を含み、色調は内外面とも黄褐色で、焼成はやや軟弱である。外面上半肩部付近に煤が若干付着している。

第8図2はSK 6から出土。復元口径は15.0cmである。口縁部は頸部から緩やかに外反し、短く外上方にのび、端部はやや面をつくる。体部は球形で、調整は口縁部内外面とも横ナデ、体部は外面頸部で横方向の細かい刷毛調整、体部縦方向の細かい刷毛調整が看取されるが、最終的に調整後、ヘラによる部分的にナデ付けが行われ、平滑に整えられている。内面は横位のヘラ削りで、下半部は縦方向のヘラ削りを施し、体部の壁面をかなり薄く仕上げている。胎土は大きめの砂粒を含み、色調は内外面とも橙褐色で、焼成は良好で硬敏である。外面上半肩部付近及び下半部に煤が付着している。



第8図 出土遺物実測図 (1 : 3)

## V　まとめ

今回の調査においては、9基の土坑と風倒木痕跡を確認した。このうち、SK1は底面付近に大量の炭化物を含む堆積層があることや、壁面の一部に熱による赤変部分があることなどから、煮炊きに使用した土坑の可能性が考えられ、出土の甕に煤も付着している。また、SK2～4、7・8からも炭化物や底面や壁面に熱による赤変部があることなどから同様に煮炊きに使用した可能性も考えられる。一方、SK6については、平面形など比較的整っており、遺物が出土するなどのことから土器供獻の墓の可能性も考えられ、集落の縁辺の一部が墓域として使用されていたのではないかと考えられる。またSK9は他の土坑に比べ、規模が大きく比較的深いもので、坑底面に凹部を伴い相違がある。

これらの土坑は様々形態があり、住居跡など直接的な生活痕跡とは相違するように思えるが、比較的傾斜の強い丘陵斜面に立地し、遺跡周辺部の水田面との比高差がかなりあることなどから、集落本体はさらに上方の丘陵部に存在する可能性がある。当該地は遺構の密度の少ない集落縁辺部に当たる可能性もあると思われる。

遺跡形成の時期は、出土遺物が少なく明確ではないが、時期の判明する土器がSK1から6世紀前半、SK6から5世紀中頃と思われる土師器甕が出土している。これをもって、当該遺跡の時期の決め手とはなりがたいが、概ね5世紀中頃から6世紀前半を通じ、集落の縁辺部においての一機能を形成していたものと考えられる。

古墳時代後半期のこの地域の集落跡の様相は、6世紀後半になると概してこれまででは丘陵頂部に立地した住居空間が丘陵斜面にも形成されるようになり、単に住居だけでなく生産に伴う建物跡などが付随するような集落を形成していく傾向も認められ、その規模も大きくなっていく。当該地は住居跡等の明瞭な生活痕跡が認められず、集落の活動範囲の縁辺的な様相であり、時期的にも当地域の古墳時代後半期の集落形成の前段階に当たるものであろう。

### 参考文献

- 三次市史編集委員会『三次市史Ⅰ』 2004年
- 三次地方史研究会・編『「三次の歴史』 1985年
- 広島県教育委員会『広島県遺跡地図XII』(三次市・庄原市) 2006年
- 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター『松ヶ迫遺跡群発掘調査報告—三次工業用地造成に伴う埋蔵文化財の発掘調査一』 1981年
- 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター『灰塙ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書(Ⅱ)道ヶ曾根遺跡』 1998年

a 空中写真



b 空中写真



c 調査前近景  
(南から)

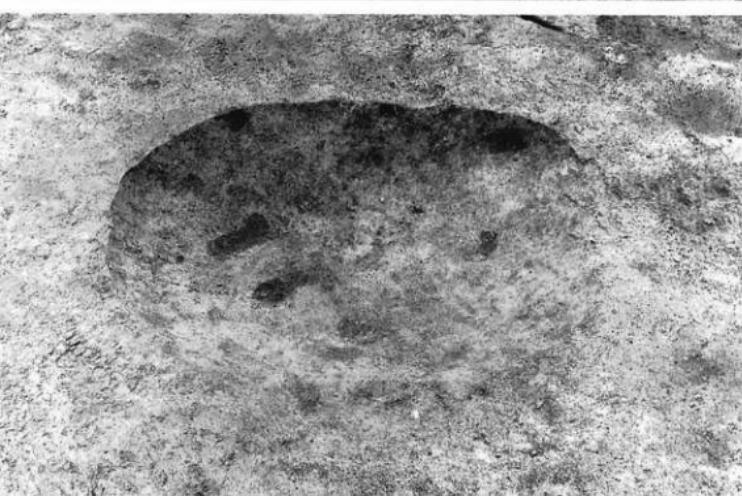




a SK 1 検出状況  
(北東から)

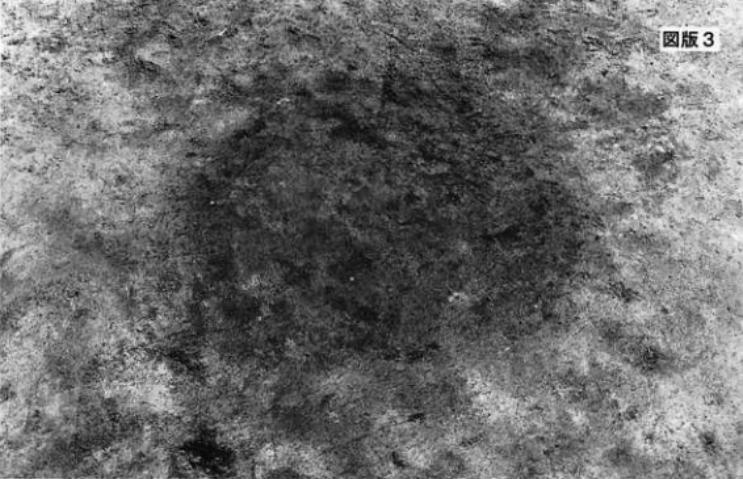


b SK 1 遺物出土状況  
(南から)

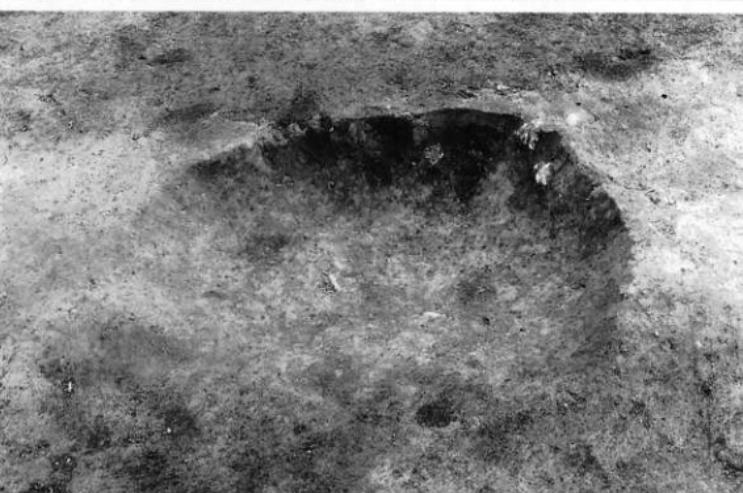


c SK 1 完掘状況  
(東から)

a SK 2 検出状況  
(北東から)



b SK 2 完掘状況  
(北東から)



c SK 3 検出状況  
(北から)





a SK 3 完掘状況  
(北から)



b SK 4 検出状況  
(北東から)

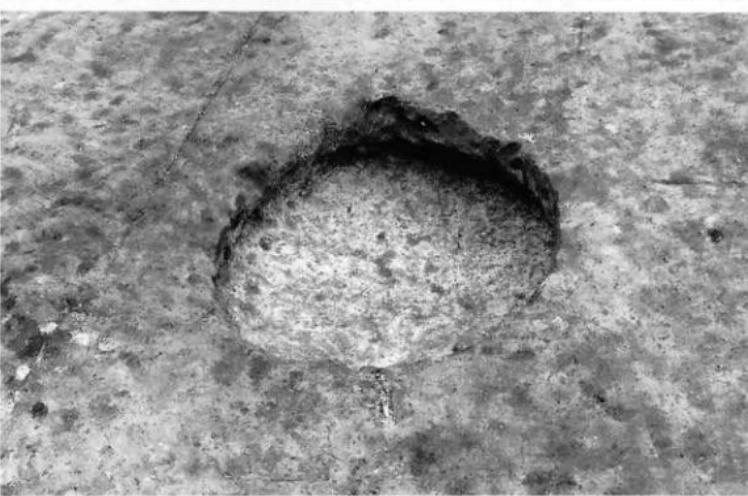


c SK 4 完掘状況  
(東から)

a SK 5 検出状況  
(南東から)



b SK 5 完掘状況  
(北東から)



c SK 6 検出状況  
(北から)





a SK 6 遺物出土状況  
(北から)



b SK 6 遺物出土状況  
(北西から)



c SK 6 完掘状況  
(北から)

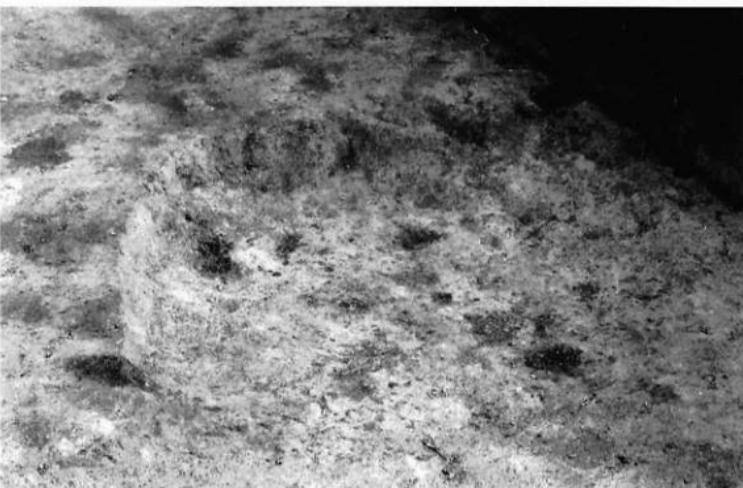
a SK 7 検出状況  
(東から)



b SK 7 歳、焼土検出  
状況 (東から)

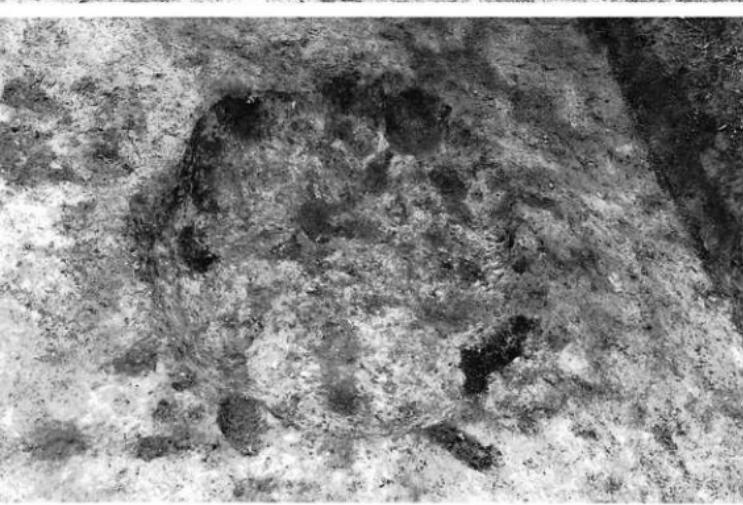


c SK 7 完掘状況  
(北から)





a SK 8 検出状況  
(東から)



b SK 8 完掘状況  
(東から)



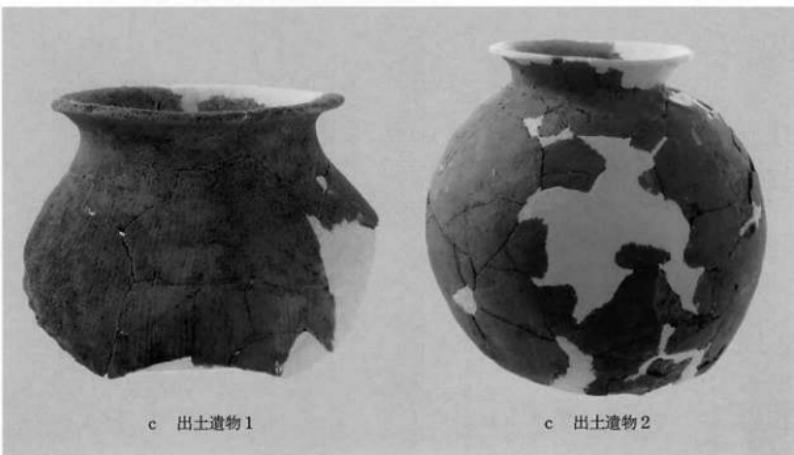
c SK 9 検出状況  
(北から)



a SK 9完掘状況  
(北から)



b 調査後後景  
(南から)



c 出土遺物1

c 出土遺物2

## 報告書抄録

財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第37集  
中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告（14）

上 脇 達 路

発行日 平成23（2011）年3月31日

編 集 財団法人 広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
〒733-0036 広島市西区鏡音新町四丁目8番49号  
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951

発 行 財団法人 広島県教育事業団  
印刷所 鯉城印刷 株式会社